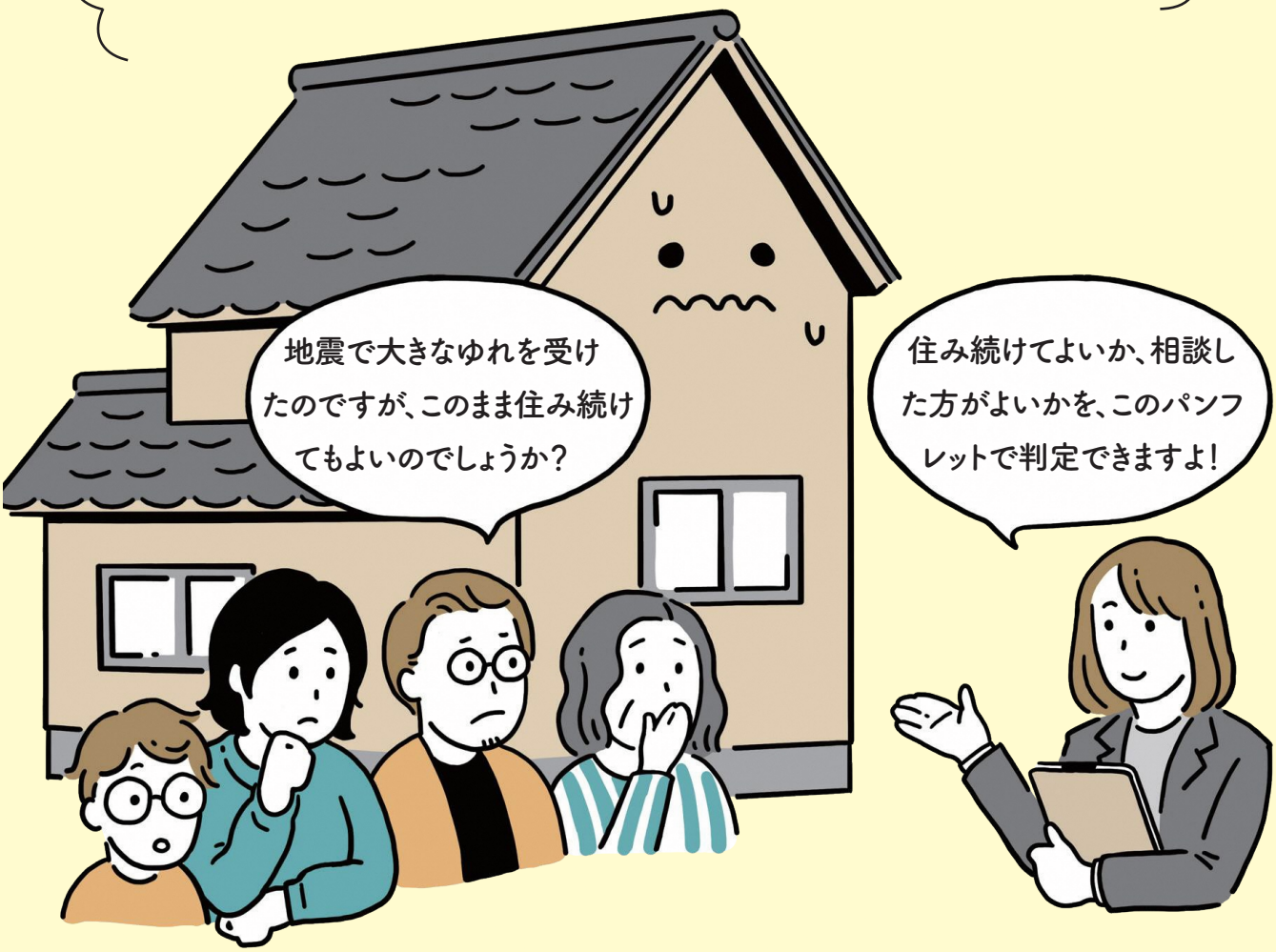
別紙

木造住宅の地震後の安全チェック

この家、住み続けていいのかな?



判定できる住まいの要件

このパンフレットで判定できる住まいは、右の4つの要件のすべてに当てはまる木造住宅※1です。

要件に当てはまらない場合で住み続けることに不安がある場合には、お住まいの市町村や専門家（4ページ）へご相談ください。

※1 店舗併用住宅を含みます。軸組構法または枠組壁工法（ツーバイフォー）の住宅が対象です。

- □ 震度5強以上のゆれを受けた
- □ 大きな被害※2はない
  ※2 家全体が傾く、柱が折れる、外壁が外れるなど
- □ 平屋、2階建て、3階建てのいずれか
- □ 1981年（昭和56年）6月以降に建てた

国土交通省

チェック

1 敷地や住まいの状況を確認します

①敷地内に液状化やひび割れがある

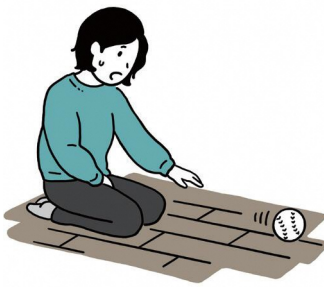
□ はい　□いいえ

液状化で砂がふき出した例

②床をもの※3が転がる

□ はい　□いいえ

※3 野球・硬式テニスのボール、サッカーボール等



③窓の開閉がしづらくなった

□ はい　□いいえ

結 果

□すべて「いいえ」→ チェック 2 へ進みます

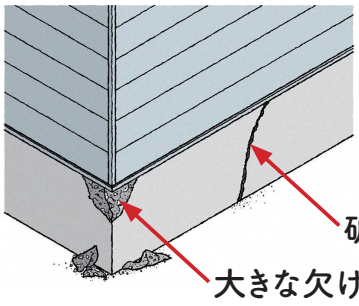
□ひとつでも「はい」→ 4ページ 判定B へ

チェック

2 基礎の状況を確認します

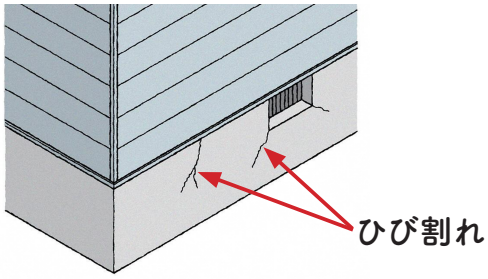
①基礎に大きな損傷がある

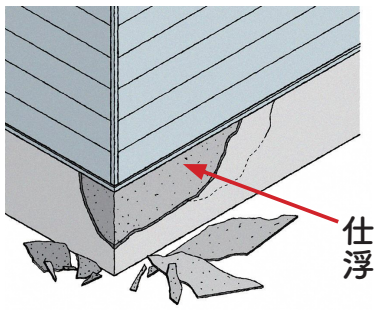
□ はい　□いいえ



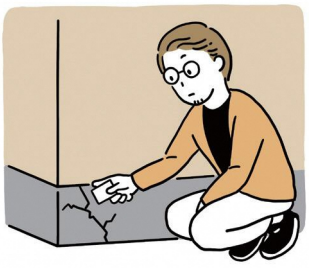
②基礎にひび割れ※4が3か所以上ある

□ はい　□いいえ





※4 幅0.3㎜以上が目安です。（厚手のはがき・ポストカード・名刺の厚み）



結 果

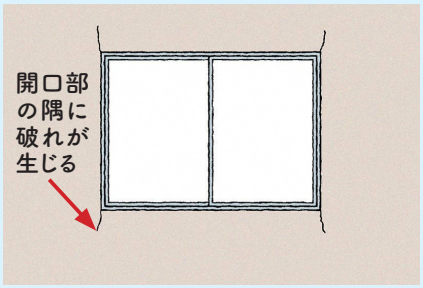
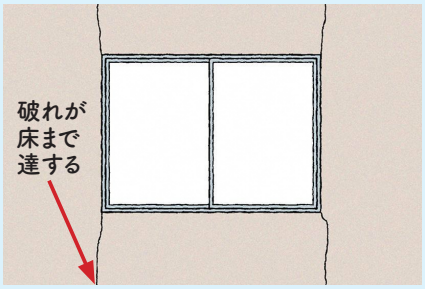
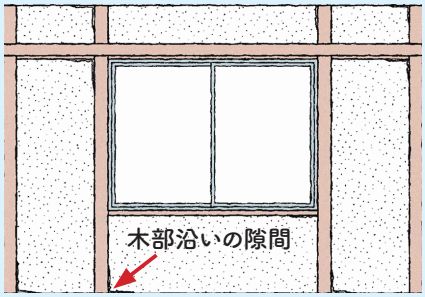
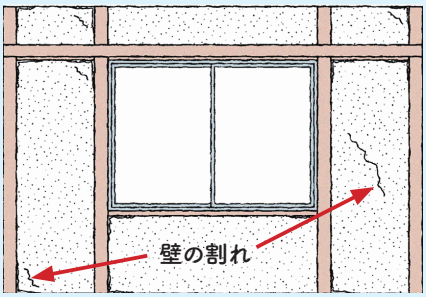
□すべて「いいえ」→ チェック 3 へ進みます

□ひとつでも「はい」→ 4ページ 判定B へ

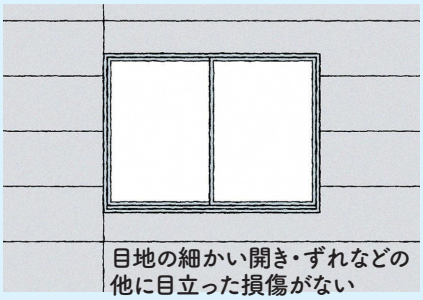
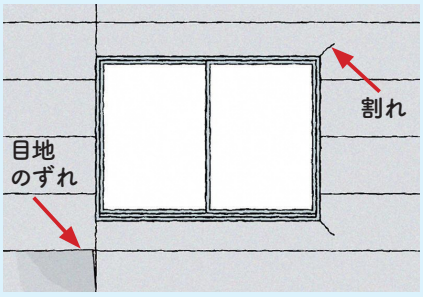
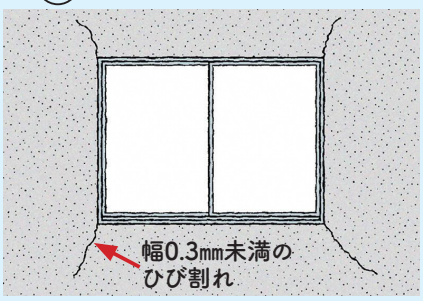
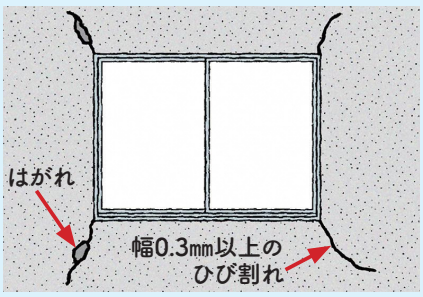
チェック

3 内壁と外壁で最も損傷している部分の状況を確認します

内壁（該当する仕上げが表にない場合は、欄外の※5を参照してください）

仕上げ	損傷の程度		
ⓐ 壁紙（クロス）	□ ㋑ 目立つ損傷がない	□ ㋺ 損傷が比較的小さい 	□ ㋩ 損傷が比較的大きい 
ⓑ 塗り壁（しっくい・ジュラク等）	□ ㋑ 目立つ損傷がない	□ ㋺ 損傷が比較的小さい 	□ ㋩ 損傷が比較的大きい 

外壁（該当する仕上げが表にない場合は、欄外の※5を参照してください）

仕上げ	損傷の程度		
ⓒ サイディング（横張り）	□ ㋑ 目立つ損傷がない	□ ㋺ 損傷が比較的小さい 	□ ㋩ 損傷が比較的大きい 
ⓓ 塗り壁（モルタル等）	□ ㋑ 目立つ損傷がない	□ ㋺ 損傷が比較的小さい 	□ ㋩ 損傷が比較的大きい 

結 果

□ ㋑または㋺のみ ⟶ チェック **4** へ進みます

□ ひとつでも㋩がある ⟶ 4ページ **判定B** へ

※5 ⓐ～ⓓの仕上げに該当するものがひとつでもあれば、その損傷の程度で**結果**を判断します。
ⓐ～ⓓの仕上げに該当するものがひとつもない場合、 4ページ 判定B へ

チェック

4 お住まいの地域の震度を確認します

チェック4は、チェック3の結果が「☑ ㋑または㋺のみ」の場合に行います。

□ 震度7
□ 震度6強
□ 震度6弱

→ 判定A

□ 震度5強

→ チェック3の結果

- すべて㋑ → 判定A
- ㋺がある → 判定B

総合判定

判定A

このまま住み続けて大丈夫です。

ただし、瓦屋根など被害を受けた部分は補修しましょう。

判定B

お住まいの市町村や専門家へご相談ください。

あなたの住まいは地震により耐震性が低下している可能性があります。

参考情報

▼お住まいの地域の専門家を知りたいとき
⇒被災度区分判定・復旧技術事務所名簿

▼お住まいの地域の震度を知りたいとき
⇒日本建築防災協会

▼液状化について詳しく知りたいとき
⇒日本建築防災協会 液状化の関連サイト

▼被災度区分判定について詳しく知りたいとき
⇒日本建築防災協会 被災度区分判定とは

住所＿＿＿＿＿＿＿＿

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

建築年＿＿＿＿＿＿＿＿

協力：一般財団法人 日本建築防災協会